

帯広畜産大学 畜産フィールド科学センター概要

～「100%資源循環型酪農」を目指して～

「教育・研究・生産」の融合

「100%資源循環型酪農」の構想

教育機能



獣医学科1年生の哺育実習



エクステンション
(ふれあい牧場体験)



繁殖検診



卒業研究の試料採取
(血液採取)



放牧・採草地(90ha)
トウモロコシ(27ha)



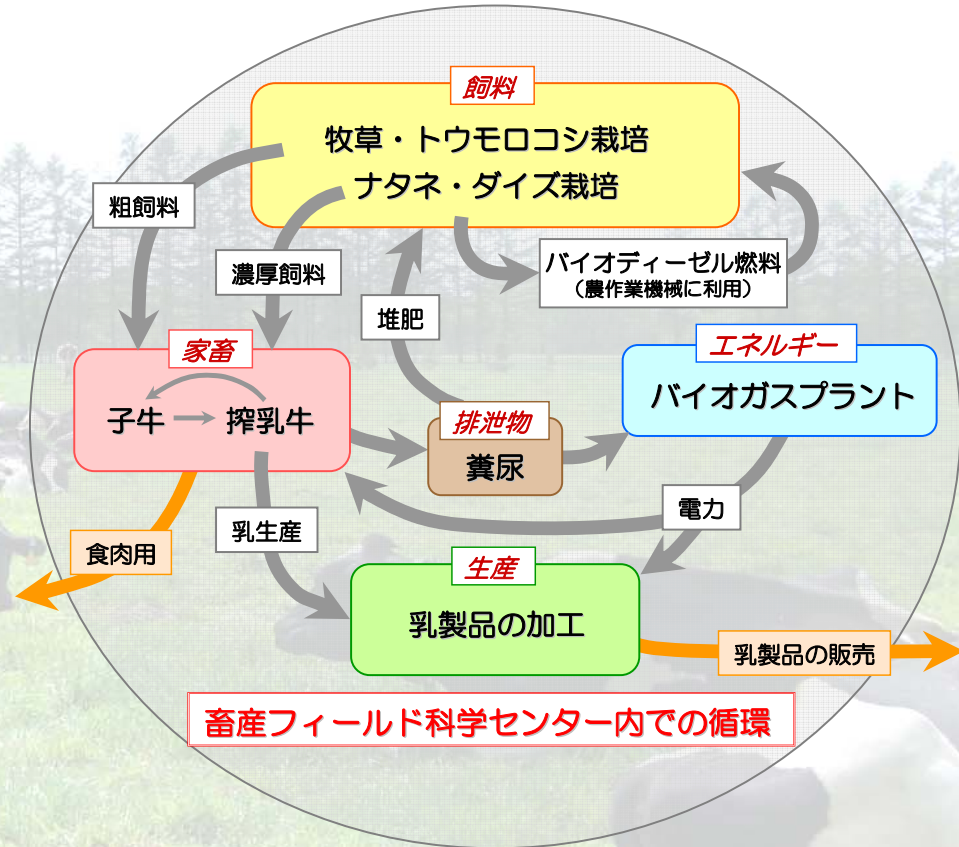
牛乳生産
(月産14,000本)



バイオガスプラント

生産機能

研究機能



乳牛を用いた最先端の実践教育と研究を支える体制を整えており、全入学生への農畜産学導入教育や獣医臨床・畜産科学科の専門実習教育などの授業カリキュラムだけでなく、各専門研究室による乳牛を対象とした研究や、農場運営に関わる牛群の繁殖管理や健康管理、搾乳なども各専門の研究室やサークルを中心に行われています。

本センターは、この40年間、外部からの導入牛はなく、現在は全てここで生まれ育った牛で乳生産を行っています。また粗飼料も広大な圃場で自家生産し、家畜と粗飼料は100%自給の農場です。さらに、家畜の糞尿を堆肥化したり、バイオガスプラントを利用して電力を取り出し、エネルギーの循環利用をしています。これらに加え、将来的には、ナタネやダイズ栽培により、その油を農作業機械のバイオ燃料に利用し、その残渣を濃厚飼料として利用する計画も立てています。